

# 「千葉県立図書館の今後の在り方」行動計画

## 平成25年度実施状況報告

I 市町村立図書館充実のための支援強化	(目次)
1 県内図書館ネットワークの中核的機能の強化	p 1
2 新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施	p 3
II 未来を担う子どもの読書活動の推進	
1 子どもの読書活動推進センター館機能の強化	p 4
2 学校図書館との連携・支援	p 6
III 県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及	
1 県民の課題解決に対する支援	p 9
2 高齢者・障害者サービス等	p 12
IV 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承	
1 千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存	p 14
2 関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信	p 17
V 社会の変化に対応した図書館サービスの推進	
1 ITを活用したハイブリッド図書館の整備	p 18
2 県民に開かれた図書館経営	p 19
VI 今後の図書館経営・施設整備の方向性	p 20
(別添資料) 平成25年度実施状況概要・数値項目、行動計画(概要図)	

平成26年7月

千葉県立図書館

# I 市町村立図書館充実のための支援強化

住民の生涯学習と地域の発展を支える情報拠点としての機能を十二分に発揮し、充実した図書館サービスが行えるよう市町村立図書館を支援する。

## 1 県内図書館ネットワークの中核的機能の強化

### 【重点事業①】 資料搬送ネットワークの維持・改善

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの施設に、市町村で収集し難い資料収集を含め、迅速な資料提供ができるようにする。

<年度別>25～26年度 図書館実態調査の実施（他都道府県、県内市町村）

### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 資料搬送ネットワークの維持・改善に対する意向を把握するため、県内市町村立図書館及び読書施設等へのアンケートを実施、集計結果を図書館ホームページで公開した。資料搬送については、現在の、県立図書館間を週2回、各エリアの市町村へ週1回巡回という現状のシステムに、ほぼ満足いただいているという結果であったが、回数、方法、利用促進などについて、他都道府県の動向等も参考にして、検討を行う。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
A 県立図書館蔵書貸出冊数	冊	平均 冊	冊			
	90,226	91,500	89,984			
B 市町村立図書館等読書施設蔵書貸出冊数	冊	平均 冊	冊			
	94,615	96,000	94,493			

### 【重点事業②】 情報検索ネットワークシステム（横断検索システム）の維持・改善

・次期システムの更新（平成29年11月予定）に向けて更なる対象館の拡大とシステムの改良を行う。

<年度別>25年度～ 次期システムの検討

### 【平成25年度進捗・成果】

3館) 次期システムに向けて内部で検討を進めるため、検討班を設置し、導入後の新たな課題やシステム検証等の進め方について協議し、スケジュール案と役割分担を決め、作業を開始した。

- ・利用者アンケート調査（10月27日～11月9日） 総合満足度76.3%（前年度74.3%）  
うち検索機器の利用満足度は73%（前年度66%）であった。【※他の項目はV-2参照】

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
C 利用者アンケート満足度調査 総合満足度	% 74.3	平均 以上 75%	76.3%			
うち資料検索機、インターネット等 パソコン利用の満足度 ※他の項目はV-2参照	66%	—	73%			

### 【重点事業③】 県内大学図書館、類縁機関とのネットワークづくりを推進

- 大学図書館については、千葉県立図書館横断検索への参加や相互貸借など、一層の連携や充実を図る。
- 類縁機関については、県の機関を中心に連携を推進し、千葉県関係資料のデータベースの一層の充実を図る。

<年度別> 25～28年度 大学図書館、類縁機関と連携について協議

#### 【平成25年度進捗・成果】

##### 3館) 連携の在り方について検討

中央博物館との意見交換会を2回開催し、今後の連携についての話し合いを行った。その結果、図書館と博物館が所蔵する資料や人的・知的資源を活用し、実践を踏まえた連携・協力体制を構築するため、事前に具体的な展示計画を持ち寄り意見交換を行ったり、両機関が同じテーマで企画展を行うなど、具体的な方策を継続して検討していくこととした。

##### <大学図書館、類縁機関との連携事業>

3館) 県内の大学及び類縁機関と連携し、資料の相互貸借や研修事業を行った。

大学への貸出(487冊)、大学からの借受(181冊)

類縁機関への貸出(91冊)、類縁機関からの借受(9冊)

中央) 「上総掘り」講師(帝京平成大学) 延べ参加者28人

「富士山の巨大4コマまんがを作ろう！」ワークショップ 協力(県立美術館) 参加者15人

「校外学習セミナー」講師(中央博物館) 参加者 千葉中79人、葛城中159人

「世界遺産講座」講師(中央博物館) 延べ参加者50人

西部) 「サイエンス・カフェ」講師(第1回 中央博物館、第2回 現代産業科学館) 延べ参加者43人

東部) 「歴史講座」講師(中央博物館) 参加者53人

「千葉経済大学短期大学部と千葉県立東部図書館との連携研修会」講師(千葉経済大学短期大学部) 参加者14人

## 2 新しい図書館サービス実施のための職員研修プログラムの開発・実施

### 【重点事業①】 図書館研修センターとしての機能強化

○運営支援の一環として、全ての県内図書館等読書施設の職員が、図書館サービス向上のための研修を受けられるよう、千葉県公共図書館協会と連携した研修プログラムの開発を行う。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査（検討・実施・分析）

### 【平成25年度進捗・成果】

3館）市町村立図書館等職員向け研修会を17回開催、延べ662人参加、満足度は88%であった。

研修内容や開催方法についての要望を把握するため、中央図書館を中心に、県内市町村立図書館及び読書施設等へのアンケートを実施、集計結果は図書館ホームページで公開した。実務に役立つ研修内容や、参加しやすい場所での開催等の要望が多かった。それを受けて、26年度は、新任職員研修を県立三館での分散開催とした。研修内容の改善にも取り組んでいく。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
D 研修会の参加者数及び満足度 (参加者数) (満足度)	人 656	平均 人 660	人 662			
	未調査	平均 以上 70%	% 88.0			

<研修会（実施状況）> 17回開催（延べ662人）

中央）「新任職員研修会」（84人、満足度76.6%）、「中堅職員研修会」（36人、満足度72.2%）

「地域行政資料研修会」（30人、満足度68%）

「児童サービス研修会（全5回）」（延べ243人、満足度94.1%）

「レファレンス研修会〔基礎研修〕〔専門研修〕」（延べ75人、満足度91.5%）、

「課題解決支援サービス研修会」（内容：満開佐倉文庫の地域資料情報サービス）（25人、満足度92%）

西部）「課題解決支援サービス研修会（全2回）」（内容：第1回 健康医療情報サービス、第2回 資料補修）

（第1回 22人、満足度100%、第2回 30人、満足度93.1%）

「障害者サービス研修会（全2回）」（第1回 43人、満足度79.4%、第2回 33人、満足度95.2%）

東部）「課題解決支援サービス研修会」（内容：高齢社会における図書館サービスを考える）（27人、満足度86.4%）

「千葉経済大学短期大学部との連携研修会」（14人、満足度100%）

## Ⅱ 未来を担う子どもの読書活動の推進

県内公立図書館のセンター館として、家庭、市町村立図書館、学校等における子どもの読書活動やこれに携わる人や機関等との連携協力の推進を図る。

### 1 子どもの読書活動推進センター館機能の強化

#### 【重点事業①】 児童サービス職員研修会の開催、運営相談の実施

- 市町村立図書館等読書施設でも対応できるよう児童サービス担当職を育成する。
- 研修プログラム等の見直しを図る。

<年度別>25～26年度 県内図書館アンケート調査の実施

#### 【平成25年度進捗・成果】

中央)市町村立図書館等職員向け研修会を5回開催、延べ243人参加、満足度は94.1%であった。

・県内アンケート実施（I-2【重点事業1】のアンケートとの同時実施。）

児童サービス経験概ね3年以下の職員向け研修について、内容、開催日数・時期について聴取。その結果、現在の年4日間（延べ5回）の研修日程や内容についての理解は得られているが、予算削減等により、連続して参加することが難しい自治体もあり、年度をまたいでの分割受講の希望は約6割あった。このため、今後は受講者の希望や時勢にあった研修内容の更新とともに、フレキシブルな受け入れ体制について検討する。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
D' 研修会の参加者数及び満足度 I-2-①の数値項目のうち児童サービス研修会	人	平均 人	人			
	204	—	243			
	未調査	平均 以上	%			
		—	94.1			
E 児童サービス研修会開催回数	回	平均 回	回			
	4	5	5			

中央)「児童サービス研修会（全5回）」 延べ243人、満足度94.1%

第1回（児童奉仕概要 6月6日、42人）、第2回（絵本・物語の選定 6月13日、43人）

第3回（おはなし会の運営 7月4日、44人）、

第4回（レファレンス 10月3日午前、44人）

第5回（講演会 10月3日午後、70人）

講演：「児童書の出版について」講師 福音館書店編集者 唐 亜明（カズヤシ）氏

**【重点事業②】 家庭における読書活動の推進**

- 講座プログラム等事業の見直しを図り、地域のボランティアとして活動できるよう支援する。
- 乳幼児・児童などの保護者等への課題解決支援サービスを検討、実施する。

＜年度別＞25年度～ 事業内容の再検討と実施

**【平成25年度進捗・成果】**

中央) 県民が子ども読書活動における地域ボランティアとして活動できるよう、「子どもの本の読み聞かせ講座」を銚子市で開催、74人(1日目46人、2日目28人)が参加。また、教職員対象に同講座を館山市で開催、18人の参加を得た。

館内に、平成25年3月設置した「子育て支援情報コーナー」のスペースを拡充。

併せて、資料が探しやすいよう「子どもと本」「食と生活」「子どもの病気」「名づけ」「あそび・わらべうた」等のテーマ別に整備するなど内容の充実を図った。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
F 図書館ボランティアの育成者数	人 65	平均 人 70	人 74			

**【重点事業③】 ヤング・アダルトサービスの開発**

- 10代の若者に対して進路や就職など必要な資料情報活用のための支援を行う。
- 10代に出会う多様なテーマや生き方を、読書を通じて支援していく。

＜年度別＞26～27年度 サービス計画立案・策定

**【平成25年度進捗・成果】**

中央) 高校へのレファレンス提供済み資料リストを24件作成し、県立3館で情報共有化を図った。

図書館ホームページへ「子ども向け」(12件)、「10代向け」(1件)各ブックリストを掲載した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
G 児童書の貸出冊数 <児童資料室(中央)>	冊 37,661	平均 冊 40,000	冊 38,382			
H 子ども読書支援関係のテーマ別リスト作成件数	件 22	累計 件 70	件 25			

※電算上ヤングアダルト世代(13歳から18歳)への貸出冊数の統計は取れない。

＜テーマ別リストの主な内容＞ 「食の安心」、「沖縄」、「異文化理解」など

## 2 学校図書館との連携・支援

### 【重点事業①】 学校向けの貸出用資料の整備

○高等学校からの要望も取り入れながら、新規のテーマや既存のセットに新刊図書を組み入れる等、授業で利用できる資料整備を推進していく。

<年度別>25～29年度 学校用セットの整備、25～26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施

#### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 校長会等で学校用セットの広報を行った。また、県内高等学校及び特別支援学校に希望する資料等アンケート調査を実施、集計結果は図書館ホームページで公開した。併せて、セット資料の追加整備を行うとともに、計34校、延べ151セット貸出した。

アンケート結果より、このサービスを知ったきっかけは、研修会等の校外行事とホームページがほとんどであることから、研修会等でのPRは有効であると言える。よって、校長会や司書の会議でのPRに加え、実際授業等で指導を行う教員の会議でPRを行った。(総合教育センター高校5年、10年経験者研修)セット資料については、高等学校の現場でさらに必要とされる資料の整備を進める。(道徳で使える資料、修学旅行関連資料の地域追加、等)

西部) 特別支援学校への訪問読書支援の試行開始、西部管内の県立校へ調査、希望校3校へ訪問。

- ・運営相談：つくし特別支援学校

- ・読み聞かせ・運営相談：市川特別支援学校、船橋特別支援学校

「障害者サービス研修会(全2回、内容：特別支援学校の読書支援)」に特別支援学校教職員延べ6人参加。

東部) 学校司書等の研究協議会での広報。県内高等学校・特別支援学校・大学への運営相談(48回)、運営相談時に広報パンフレットの配布を行った。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
I 県立学校等への資料貸出冊数	冊	平均 冊	冊			
	13,555	15,000	15,584			

## 【重点事業②】 物流ネットワークの整備

○現在の資料搬送ネットワークを継続するとともに課題について検討し、現状よりも多くの学校に、迅速な資料提供ができるよう効率的なネットワークを整備する。

<年度別>25～26年度 学校図書館へのアンケート調査の実施

### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 高等学校・特別支援学校への資料搬送は、西部・東部は協力車、中央は宅配で行っている。

さらなる利便性の向上を図るために、高等学校・特別支援学校に対して、搬送方法への要望等のアンケート調査を行った。集計結果は図書館ホームページで公開した。搬送方法については、利用している学校には、ほぼ満足してもらっている。今後は、西部・東部エリアでも、宅配を含め各校の状況に応じた搬送方法について研究していく。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
I 県立学校等への資料貸出冊数	冊	平均 冊	冊			
【再掲 II-2-①】	13,555	15,000	15,584			

### 【重点事業③】 小・中学校図書館との連携・支援

○事業内容を再検討し、研修会の実施や講師の派遣など事業の充実を図る。特に図書館未設置市町村の学校図書館への支援方法等を検討し、実施していく。

○児童・生徒が抱える課題解決支援サービスを検討し、資料・情報を提供する。

＜年度別＞25年度～ 事業内容の再検討と実施

25～27年度 図書館未設置市町村読書施設の実態調査と支援方法再検討

#### 【平成25年度進捗・成果】

3館) 通年 近隣中学生の職場体験受入(中央:9校17人、西部:1校2人、東部:10校21人)

中央) 図書館未設置市町村の読書施設の実態調査を実施した。その結果、学校図書館との連携については、学校に対し団体貸出や出張おはなし会を実施しているのは、16市町村のうち5市町村(31%)のみで、ボランティアの養成や活用もあまりされていない状況であり、こうした状況を踏まえた資料の貸出しやボランティアの育成など具体的な支援策について検討する。

企画展関連行事として、近隣中学校1年生(千葉中79人、葛城中159人)対象の校外学習セミナーを実施した。また、調査相談や市町村立図書館等を通しての資料貸出しを行った。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
J 教職員等に対する研修会開催回数 及び講師派遣件数	回	平均 回	2 回			
	2	2				
	(開催) 件	平均 件	8 件			
	13	14				
	(派遣)					

#### ＜研修会（実施状況）＞

中央) 「子どもの本の読み聞かせ講座」(8月8日、会場:館山市、対象:教職員 参加18人)

東部) 読書施設担当者職員・学校図書館職員のための資料検索研修会(8月27日)

参加者12人(高校9人、特別支援学校3人)

#### ＜講師派遣（実施状況）＞ 8件

中央) 「さわやか県民プラザ 読み聞かせ朗読講座(全2回)」 2人

千葉県高等学校教育研究会学校図書館部会総会、千葉県教育研究会学校図書館教育部会総会、公立学校図書館と学校連携を図るための研修会、平成25年度高等学校ステップアップ研修、平成25年度県立学校等10年経験者研修 各1人

西部) 千葉県高等学校教育研究会 学校図書館部会総会 1人

東部) 第3地区図書主任及び学校図書館司書合同総会及び研究会 1人

### Ⅲ 県民の役に立つ資料・情報提供サービスの普及

県民や地域、行政が抱えている法律、医療・福祉の問題、まちづくりなどの課題を解決するための調査研究支援を先導して行うとともに、市町村立図書館等への普及を図る。

#### 1 県民の課題解決に対する支援

##### 【重点事業①】 課題解決支援サービスの実施及び市町村立図書館への普及

○県立3館の研修内容を精査し、千葉県公共図書館協会とも連携して開催する等市町村立図書館への普及を推進する。

○地域の課題に対応した課題解決支援サービスのサービス計画の立案を支援するため、市町村立図書館等の相談に応じる。

＜年度別＞25年度～ 市町村立図書館主体の課題解決講座始業の相談対応開始  
25～26年度 事業内容の検証

##### 【平成25年度進捗・成果】

3館)市町村立の課題解決支援サービスを推進するため、3館の特色を生かした課題解決支援サービス研修会を4回実施し、延べ104人の参加を得た。なお、研修会開催時アンケート調査での満足度は87.5%であった。

また、県民向けに各種講座を7種(9回)開催し、延べ204人の参加を得た。

＜課題解決サービス関係研修会(実施状況と内容)＞ 4回(延べ104人、満足度87.5%)  
中央)「満開佐倉文庫の地域情報サービス」(12月11日、25人 満足度92.0%)  
西部)「医療・健康情報サービス」(7月12日、22人 満足度100%)  
「図書館現場で日常的に行う資料補修の実際」(12月4日、30人 満足度93.1%)  
東部)「高齢社会における図書館サービスを考える」(11月14日、27人 満足度86.4%)

##### ＜参考＞

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
D' 研修会の参加者数及び満足度 I-2-①の数値項目のうち課題解決支援サービス研修会 (参加者数)	人	平均 人	人			
	80	—	104			
(満足度)	未調査	平均 以上	%			
		—	87.5			

＜課題解決サービス関係講座(実施状況)＞ 9回(延べ204人)

中央)「くらしに役立つ法律・判例情報講座(全2回)」 延べ48人

第1回(5月26日、28人)、第2回(6月23日、延べ20人(午前14人、午後6人))

- 西部)「ジョブカフェちば」出張版(8月13日、2人)  
「消費者自立支援講座」(11月30日、18人)  
「中高年の再就職支援セミナー」(12月5日、10日、延べ32人)  
「健康・医療情報講座」(2月8日、15人)  
東部)「ライフプラン講座」(10月19日、32人)  
「地域づくり支援講座」(2月15日、57人)

**【重点事業②】 レファレンス事例集紹介、調べ案内、リンク集の作成**

○利用者ニーズを把握し、作成件数を増加しながら、既存のものについても常に最新のものに更新していく。  
○作成にあたっては、県行政機関の広報活動支援の一助となるよう各機関が発信する情報の収集及び提供に努める。

<年度別>25～29年度 利用者ニーズの把握・検討、データの新規作成及び更新

**【平成25年度進捗・成果】**

**3館) 国立国会図書館レファレンス協同データベース提供 85件**

相談されるレファレンス事例については、データベース登録に適した事例を選定し、同様事例の調査にも利用しやすいように調査過程などの補足や加工をして、国立国会図書館レファレンス協同データベースへ事例登録した。

**3館) パスファインダーの作成 20件**

問合わせの多い調査、社会的な関心が高まっているテーマ及び講座や展示資料と関連したテーマのパスファインダー(調べ案内)を作成、配布するとともに図書館ホームページへ掲載した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
K 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供件数	69件	累計 210件	85件			
L パスファインダー(調べ案内)の作成件数	18件	累計 40件	20件			

**※国立国会図書館レファレンス協同データベース**

国立国会図書館が全国の図書館等と協同で構築する調べ物のための検索サービス。参加館の質問・回答サービスの事例、調べ方、コレクション情報など調査に役立つ情報を公開している。

**<パスファインダーの内容(実施状況)>**

**中央) 13件作成(うち9件改訂)**

〔一般〕作成(富士山を調べる)(いじめ)、改訂(図書を探す)。

〔千葉県関連〕作成(千葉の「戦争遺跡」を調べる)、

改訂(千葉県の地名、市町村、統計、自然災害、自然環境と生物、農業、夏の高校野球)

〔新聞雑誌関連〕改訂(新聞記事を探す)

〔児童関連〕作成(児童書〈絵本・物語〉を探す)

西部) 4件作成(うち2件改訂)

新規(学習障害、就労に役立つ情報)、改訂(病院、インターネットトラブル)

東部) 3件作成(うち2件改訂)

新規(自分史)、改訂(ブラジル、シンガポール)

### 【重点事業③】 商用データベースの積極的導入

○効果的且つ効率的な導入方法を検討し、専門的なレファレンスに迅速に対応できるようにする。

○多くの来館者が操作方法を修得できるよう分かり易く、魅力的なガイダンスを定期開催する。

<年度別>25年度 ガイダンスの検討・実施、 25~28年度 データベースの導入方法の検討

### 【平成25年度進捗・成果】

データベースに関する利用・活用講座を10回(中央2回、西部2回、東部6回)開催した。

また、国・民間(有料)等のデータベースを活用した調査相談、来館利用提供を行った。

中央) 「くらしに役立つ法律・判例情報講座 第2回(法律に親しむデータベース活用法: D1-Law.com  
活用講座)」6月23日 延べ20人(午前14人、午後6人)

「データベース活用講座(内容: ヨミダス歴史館利用講座)」10月19日 7人

西部) 「ワンポイント図書館活用講座 第1回」(消費者自立支援講座併催) 11月30日 18人

「ワンポイント図書館活用講座 第2回」(健康・医療情報講座併催) 2月8日 15人

東部) 『図書館ナビ』データベース講座

「法律・判例を調べてみよう」(内容: D1-Law) 11月9日、24日 延べ2人

「古い音楽を聴いてみよう」(内容: 国会図書館歴史的音源) 1月11日、26日 延べ3人

「官報について調べよう」(内容: 官報情報データベース) 2月8日 1人

「新聞記事を調べてみよう」(内容: 毎日 News パック) 3月23日 2人

### <民間(有料)データベースの内容(導入状況)>

中央) 5種: D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン21、G-search、ヨミダス歴史館

西部) 7種: D1-Law、官報情報検索サービス、日経テレコン21、G-search、聞蔵Ⅱ、医中誌Web、CiNii

東部) 5種: D1-Law、官報情報検索サービス、毎日ニュースパック、G-search、ルーラル電子図書館

## 2 高齢者・障害者サービス等

### 【重点事業①】 バリアフリー化の推進

○耐震化改修後のリニューアルに向けて、次期システムの更新も視野に入れてワンストップサービスの実現や書庫出納の迅速化等施設面、情報面においてバリアフリー化を推進する。

<年度別>25年度～ 施設検討（基本設計・実施設計）、耐震等改修工事

### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 改修計画事前調査を基に検討を進めた。

### 【重点事業②】 高齢者サービスの開発

○関係資料や拡大読書器等の提供とともに、講座開催など、シニア向けサービスを検討、実施する。

○県行政関係機関の広報活動と連携した講座・研修事業を検討、実施する。

<年度別>25～26年度 先進事例調査

### 【平成25年度進捗・成果】

3館) 関東地区公共図書館協議会館長会議で、各館の高齢者サービス状況について聴取を行った。

調査結果では、①大活字本の収集、貸出しは各館実施。②高齢者向け講座等の取組は数館のみ。

③サービス計画策定している館は無かった。

また、県内公共図書館等実態調査に高齢者サービスについての設問を加え調査した。その結果、高齢者サービスを実施している図書館は54館であり、内容としては、ほとんどが大活字本や録音資料等の提供で、高齢者向けのコーナーの設置や講座の開催などの取り組みは数館のみであった。今後は、先進的な事例等の情報をさらに収集し、先進的なサービスを検討する。

中央) 「障害者のための電子書籍活用講座」(2月13日、26人参加)の対象を高齢者にも拡大、2人の参加を得た。

東部) 平成25年度課題解決支援サービス研修会(11月14日)「高齢社会における図書館サービスを考える」(筑波大学図書館情報メディア系准教授 <sup>どんかい</sup> 呑海沙織 氏)をテーマに開催した。

### 【重点事業③】 障害者サービスの充実及び市町村立図書館への普及

○県や市町村の担当課、特別支援学校、関係団体等と連携した広報活動を行う。

○県や市町村の社会福祉協議会などを通して利用者ニーズを把握し、サービスの充実を図る。

○市町村立図書館で事業を行う重要性が理解できるよう研修事業を見直す。

<年度別>25年度 広報計画の作成

### 【平成25年度進捗・成果】

3館) 障害者サービス関係の研修会2回、講座16回開催し、延べ295人が参加した。

障害を持つ利用者へアンケート(ランダム抽出、回答82人)実施、満足度は81.9%であった。

西部) 特別支援学校への訪問読書支援の試行開始、西部管内の県立校へ調査、希望校3校へ訪問。

本をデータ化しパソコン等で音声読み上げする「テキストデータサービス実証実験」モニター参加者の呼びかけを行った（応募者12名）。また、製作ボランティアを募り「資料デジタル化講座」開催し、実践・検証する中で、モニター参加者へ15タイトル提供した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
M 録音図書貸出タイトル数及び利用者満足度 (タイトル数)	タイトル	平均 タイトル	タイトル			
	10,280	10,400	10,051			
(満足度)	未調査	平均 以上	%			
		70%	81.9			

＜障害者サービス関係研修・講座（実施状況）＞ 研修2回、講座16回（延べ295人）

中央：講座6回（77人）、西部：研修会2回（76人）、講座7回（120人）東部：講座3回（22人）

中央）「障害者のための読書支援機器活用講座（全2回）」 延べ15人

（第1回：音声読書器活用講座 9月11日、8人、第2回：拡大読書器活用講座 9月27日、7人）

「障害者のためのサピエ図書館活用講座」11月20日、9人

「図書館音訳者養成講座（全2回）」1月9日、2月4日、延べ27人

「障害者のための電子書籍活用講座」2月13日、26人

西部）「障害者サービス研修会（全2回）」6月20日、10月29日、延べ76人

（テーマ：特別支援学校への読書支援）

「障害者のための資料デジタル化講座（全3回）」5月29日、6月12日、26日、延べ54人

「図書館音訳者養成講座（中級）（全3回）」11月13日、20日、27日、延べ34人

（テーマ：正確な音訳資料作成のための校正技法）

「障害者のための読書支援機器活用講座」1月21日、32人

（テーマ：電子書籍のアクセシビリティに関する最新動向）

東部）「図書館音訳者養成講座（全3回）」延べ22人

第1回「博物館と図書館をつなぐ“語り”の魅力・音訳に求めるもの」7月18日、11人

（講師 国立民族学博物館准教授 広瀬浩二郎氏）

第2回「音訳、情報伝達者の役割・小説から生活情報まで」10月2日、7人

第3回「困ったときの音訳知恵袋」10月24日、4人

（講師 全国音訳ボランティアネットワーク代表 藤田晶子氏）

## IV 千葉県に関する資料や情報の蓄積、継承

千葉県や県内市町村に関する資料を網羅的に収集・保存し、将来にわたって利用できるようにするとともに、千葉県に関する情報窓口として様々な情報を発信していく。

### 1 千葉県関係資料の網羅的収集、提供、保存

#### 【重点事業①】 千葉県関係資料の網羅的収集整備、保存

- 網羅的収集ができるよう地域・行政資料等の積極的な収集体制づくりを進める。
- インターネット上の資料を図書館情報システムの中で収集・閲覧できるよう、著作権者の許諾対応など研究していく。
- 資料収集の一環として、県民への県立図書館機能の周知と情報収集を行う。

<年度別>25年度～ 県民向け広報活動の検討と実施

#### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 県民向け広報活動として、図書館職員向け「地域行政資料研修会」(7月5日) 午後の部(講演会)を県民に開放したところ、24人の参加があった。また、千葉県資料室の所蔵資料やその活用方法等をPRするリーフレットを作成し、配布及び図書館ホームページに掲載することにより、県民に千葉県資料室の役割と機能を周知した。

#### <参考項目>

「資料受入冊数」は数値目標としていない。

基本項目	基本値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度				
○ 千葉県関係資料受入冊数	冊 2,231	冊 2,997			

#### 【重点事業②】 千葉県関係資料インターネット情報検索機能の充実

- 県機関で所有している小規模な資料データベースや音声や映像等の資料以外のデータベースについても横断的に検索できるよう研究する。

<年度別>27～28年度 情報提供システムの検討

#### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 情報提供システムの検討に向け、県保有データベース(既に一括検索が可能な文書館、博物館、総合教育センター以外)の状況把握と横断検索の方法について、継続調査中である。

**【重点事業③】 千葉県関係の情報検索ツールの充実**

- 利用者ニーズを把握し、作成件数を増加していく。
- 千葉県関係索引データ遡及入力について検討し、計画的に入力していく。

<年度別>25年度 千葉日報新聞記事索引遡及入力計画の検討

**【平成25年度進捗・成果】**

中央) 国立国会図書館レファレンス協同データベースへ18件事例提供したほか、問い合わせが多い「戦争遺跡」等のパスファインダーを8件作成し、配布及び図書館ホームページに掲載した。

また、歴史関係の記事索引を充実させるため、関連する分野(芸術等)の新規記事索引採録タイトルを選定し750件入力した。

西部) 千葉日報新聞記事索引を7,483件入力した。(昭和62年7月から平成26年3月26日まで検索可能)また、昭和62年以前の千葉日報新聞記事索引遡及入力計画の検討を行った。

東部) 国立国会図書館レファレンス協同データベースへ3件事例提供したほか、歴史分野の記事索引採録誌15タイトルを分担し、143件入力した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
K' 国立国会図書館のレファレンス協同データベースへの事例提供件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	件 18	累計 件 —	21 件			
L' パスファインダー(調べ案内)の作成件数 Ⅲ-1-2の数値項目のうち千葉県関係	件 2	累計 件 —	8 件			
N 千葉県関係索引入力件数	件 6,070	累計 件 20,000	8,376 件			

<レファレンス協同データベースへの千葉県関係事例(実施状況)>

中央) 18件登録(「元禄地震の影響」、「千葉県における社会保険婦について」等)

東部) 3件登録(「東庄町の小字の由来について」等)

<パスファインダーの千葉県関係内容(実施状況)>

中央) 1件作成(千葉の「戦争遺跡」を調べる)

7件改訂(千葉県の地名、市町村、統計、自然災害、自然環境と生物、農業、夏の高校野球)

**【重点事業④】 千葉県関係レファレンスデータベースの構築**

○県内図書館のレファレンスデータベースの実態調査を行うとともに、千葉県関係レファレンスデータベースの構築を次期システムに向けて検討する。

<年度別>25年度 事業内容の検討

**【平成25年度進捗・成果】**

中央)平成26年度に県内図書館のレファレンスデータベースに関する実態調査を行う予定であるが、その事前作業として、各図書館のホームページを調査し、レファレンスデータベースの現状を確認した。

<参考項目>

「レファレンス件数」は数値目標上の参考項目

基本項目	基本値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度				
Q 千葉県関係レファレンス件数 〈千葉県資料室(中央)〉	件 1,563	件 1,536			

**【重点事業⑤】 資料の劣化防止のためのマイクロフィルム化やデジタル化の推進**

○明治以降に刊行された資料についても劣化が進んでいるので、保存対策を検討し、計画的にマイクロフィルム化及びデジタル化を計画的に進めていく。

○国立国会図書館デジタル化資料における千葉県関係資料の活用を図る。

<年度別>25年度 デジタル化計画の作成

**【平成25年度進捗・成果】**

中央)千葉県資料室所蔵の和装本のデジタル化は概ね終了しているため、千葉県報を中心としてデジタル化を進める計画案を作成し、平成25年度は、千葉県報の昭和7年から昭和24年までをデジタル化した。平成26年度は、優先度の高い資料を再調査しながら作業計画を作成し、デジタル化を進めていく。

## 2 関係機関と連携した地域デジタル情報の収集・発信

### 【重点事業①】 関係機関との連携による利用の拡大

○次期システムに向けて、県行政機関及び博物館等類縁機関と協議し、デジタル情報の共有化を研究していく。

<年度別>25～26年度 類縁機関との協議

#### 【平成25年度進捗・成果】

#### 3館) 関係機関等との連携事業の実施

県立中央博物館との意見交換会を2回開催し、今後の連携についての話し合いを行った。その結果、図書館と博物館が所蔵する資料や人的・知的資源を活用し、実践を踏まえた連携・協力体制を構築するため、事前に具体的な展示計画を持ち寄り意見交換を行ったり、両機関が同じテーマで企画展を行うなど、具体的な方策を継続して検討していくこととした。

<類縁機関との連携事業(講座等)> 8回(延べ441人)

内訳: 中央4回(331人)、西部2回(43人)、東部2回(67人)

#### (事業の内容・連携機関・参加人数)

中央)「上総掘り」(講師: 帝京平成大学) 延べ28人

「富士山の巨大4コマまんがを作ろう!」ワークショップ(協力: 県立美術館) 15人

「校外学習セミナー」(講師: 中央博物館) 千葉中79人、葛城中159人

「世界遺産講座」(講師: 中央博物館) 延べ50人

西部)「サイエンス・カフェ〔第1回〕いきもの編」(講師: 中央博物館) 22人

「サイエンス・カフェ〔第2回〕科学技術編」(講師: 現代産業科学館連携) 21人

東部)「歴史講座」(講師: 中央博物館) 53人

「千葉経済短期大学部との連携研修会」(講師: 千葉経済短期大学部) 14人

## V 社会の変化に対応した図書館サービスの推進

情報環境の急激な変化に対応した新しい図書館サービスを推進するとともに、県民に開かれた図書館経営を行うため、利用者への情報提供や広報を積極的に行う。

### 1 ITを活用したハイブリッド図書館の整備

#### 【重点事業①】 資料のデジタル化や電子書籍によるハイブリッド図書館

○紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

#### 【平成25年度進捗・成果】

「資料のデジタル化」についてはIV-1-5、「電子書籍サービス」についてはV-1-2を参照。

#### 【重点事業②】 電子書籍サービス

○民間や国立国会図書館の動向を踏まえ、電子書籍サービスを開始する。  
○サービスを施行する中では、市町村立図書館でも開始できるよう調査、検証していく。紙媒体の資料、視聴覚資料とともに「資料のデジタル化」を進め、併せて電子書籍サービスを試行しながら県民ニーズに対応した情報提供サービスの充実を図る。

<年度別>25年度 中央図書館でサービス試行開始

#### 【平成25年度進捗・成果】

##### 中央)館内利用の試行・分析開始

平成25年4月23日から、来館利用者に対して、電子書籍等(デジタルコンテンツ)の閲覧を目的としたタブレット端末の館内貸出サービスを開始したが、提供可能なコンテンツが十分でなく利用が伸びない状況である。今後は、県民への広報の充実や活用方策等について検討する。

##### <提供コンテンツ>

- ・有斐閣YDC1000 (法律書の古典的名著がインターネットを介して利用可能(有料))、  
青空文庫 (著作権が消滅又は利用許可された本がインターネットを介して利用可能(無料))
- ・千葉県立図書館ホームページ 菜の花ライブラリー、図書館資料の検索

<利用実績>(平成25年4月23日~3月31日)延べ人数(利用時間)15人(28時間)

## 2 県民に開かれた図書館経営

### 【重点事業①】 図書館の広報戦略の強化

○県民ニーズを理解し反映するための定期的調査を行い、年間事業計画をたて、県や市町村とも連携し、県内図書館利用促進を含めた実施事業の広報を継続して行っていく。

＜年度別＞25年度～ 広報計画の作成と実践、利用者アンケート調査実施  
(非来館者対象の県立図書館アンケート調査検討)

#### 【平成25年度進捗・成果】

3館)年間広報計画を作成し実施した。また、館内利用者アンケート調査(10月27日～11月9日)を3館同時に実施し、総合評価で76.3%の満足度を得た。

中央)毎月第2水曜日、NHK千葉放送局FM放送「ひるどき情報ちば」にて、中央図書館職員が県民の方々に読んで欲しい一般書や児童書を11回にわたり紹介した。

数 値 項 目	基本数値	目標数値	25年度	26年度	27年度	平均
	24年度	27年度				
C 利用者アンケート満足度調査	% 74.3	平均 以上 75%	76.3%			

## VI 今後の図書館経営・施設整備の方向性

中央図書館を中核に、3館が一体となって機能強化を図るため、組織体制やサービス内容の見直しを行うとともに、老朽化した中央図書館の施設整備をすすめる。

### 【重点事業①】 地域分担から機能強化へ

- 県民ニーズや時代に対応した図書館サービスを実践するため、組織体制やサービス内容の見直しを行う。
- 県立図書館司書の専門的知識・経験を活かしながら、数値目標と図書館関係の調査実施などを通じて、自己点検と外部評価により、効果的・効率的な図書館経営を進める。
- 3館が収集分担を明確にし、連携して市町村立図書館が収集し難い資料を多く収集・保存し、提供できるようにする。

<年度別>25年度～ 組織体制、サービス見直し

### 【平成25年度進捗・成果】

3館) 4月から課名変更を始めとする新組織体制により、利用規則の改正に合わせた開館日数の増加、県民への広報活動を含めた各種事業紹介等を行った。

館内利用者アンケート調査(10月27日～11月9日)等での利用者からのご意見を参考に、図書館サービス改善に向けての検討・実施を行った。

改善例:(中央)「子育て支援情報コーナー」拡充、(西部)「医療・健康情報コーナー」新設

### 【重点事業②】 中央図書館の施設整備

<年度別>25年度～ 施設検討(基本設計・実施設計)、耐震等改修工事

### 【平成25年度進捗・成果】

中央) 改修計画事前調査を基に検討を進めた。

書庫狭隘化対策として、館内重複図書の廃棄候補3,611冊を選定し除籍した。

西部) 書庫狭隘化対策として、館内重複雑誌の洗い出しを行い2,485冊(19誌)廃棄した。